

第7回自転車利用環境向上会議 in 堺

## ポスターセッション発表一覧

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
1	株式会社一心助け	北海道一周ライド完走4台中装着自転車3台全てパンクゼロ	<p>平成30年7月2日～23日(22日間)におこなわれました 北海道一周ライド(北海道・札幌・網走・知床サイクリング協会) 2400kmを完走した自転車4台のうち弊社パンク激減・ご機嫌チューブ装着自転車3台全てが1回のパンクもなく完走しました。</p> <p>また、実走行でのパンクゼロの記録としては ① 26インチママチャリ当初1回の空気注入で夏から翌夏まで3000km以上の悪路等を走行してパンクなし、走行持続 ② 学習院サハリン悪路ツアー(視察時通常チューブでパンク多発)で20台の自転車に装着し200kmの悪路を一台も1回もパンクせず、無事プロジェクト成功し、帰国。 ③ 700-23cロードバイクで10cmの段差100回以上、砂利道・ぬかるみ・ブロック散乱・雑草道路・舗装路等を100km走行し、パンクせず、空気圧低下なく走行持続。 ④ 自転車メーカー6社・レンタサイクル1回の空気注入で6ヶ月間パンクなし、走行持続。</p>
2	株式会社一心助け	ポール平面画像の立体視シートによる無断駐停車撲滅と左側励行通行効果	<p>動車出入り口6m幅×300m中央にポール平面画像の立体視シートを貼付設置しました。 これまで6m道路の為、片側に無断駐停車が多く、側壁に駐停車禁止実物ポールを設置しても効果が無く、しかも中央走行による道路混雑が激しく、この悩みの解決及び解消を計るべく設置しました。 弊社平面ポール画像が車両・歩行者などから目視で実物ポールのごとく立って見え、たとえ上に乗っても破損事故等ないものです。 1年間の実証実験の結果と運転者等の声も踏まえ検証したところ、無断駐停車はゼロ、中央走行から左側通行励行により混雑なしの結果を得ました。 三鷹市地下駐輪場で実物ポールがあるにもかかわらず、その場所に違法駐輪があり、これも駐輪禁止文字入り立体視ポールを設置し効果をあげています。</p>
3	株式会社一心助け	オオタカ画像の立体視シートによるカラス糞被害回避	<p>2.3日おきに駐車場・門扉・ベランダ・自動車・自転車・駐車駐輪用屋根等にカラスの糞が頻りに落ちておりその対応に苦慮していました。このカラス糞対策に頭を悩ませている方や道路関係者・自治体の多いことが判明しました。いろいろな対策品や方法をためましたが、どれも2週間ぐらいで元に戻ってしまいました。 そこでカラスの天敵であるオオタカの剥製を写真に撮り、その写真を立体視シートにして、自動車のボンネットに設置・ワイパーに挟む・窓ガラスやベランダ窓に設置し、これまで4か月間カラスの糞が落ちているのを見受けません。ただ、4種類のオオタカ画像立体視シートを設置すると多くのカラスが近くの電線に止まり、私のいない間に「糞飛ばし」をした模様で2.3カ所庭と網戸に付けられました。その後その対策(オオタカ画像の位置変更)も取り、その後数か月静かで、被害がありません。</p>
4	全国サイクルツーリズム連携推進協議会(ルート・スポーツ・ジャパン)	全国サイクルツーリズムプロジェクト「ツール・ド・ニッポン」	<p>2012年からスタートした全国横断型のサイクルツーリズムプロジェクト「ツール・ド・ニッポン」の事業紹介。①地域資源をテーマにした大型イベント事業 ②エリア探索サイクリング「ライドハンターズ」 ③観光サイクリングに特化したスマホアプリ「ツール・ド」 ④地域の受け皿人材・サイクリングガイドの養成事業 ⑤サイクリストのマーケティング調査・地域資源調査など調査研究・コンサルティング事業 ⑥全国22の自治体などが加盟する「全国サイクルツーリズム連携推進協議会」の活動紹介、等。 平成29年・30年度国土交通省観光庁「テーマ別観光による地方誘客事業」採択。平成29年度第5回スポーツ振興賞(日本スポーツツーリズム推進機構会長賞)受賞。 イベント事業としてのツール・ド・ニッポンは、29年度は全国16地域で開催し、計約15,000人のサイクリストに参加いただき、宿泊などの経済効果を生みました。今後はアプリ開発やガイド養成など、「イベント以外の日常的なツーリズム施策」へも力を入れていきます。</p>

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
5	兵庫県	兵庫県における自転車通行空間整備の取り組み	兵庫県では、安全で快適な自転車利用環境を創出するため、平成24年度より、歩行者と自転車の通行空間の分離等による安全対策を重点的に進める「歩行者・自転車分離大作戦」に取り組んでいる。 また、関係機関の連携のもと、安全で快適な自転車通行空間を連続したネットワークとして計画的に整備を進めるため、市町による「自転車ネットワーク計画」の策定を支援している。 今回の発表では、兵庫県における自転車通行空間の整備状況や自転車ネットワーク計画の策定状況、代表的な取り組み事例について紹介する。
6	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市	「サイクリングアイランド淡路」の取り組み	瀬戸内海最大の島「淡路島」では、近年、島の外周を右回りに一周する約150kmのサイクリングコース「アワイチ」が、サイクリストに高い人気となっている。 「アワイチ」は、変化に富んだコースに加え、穏やかな瀬戸内の自然や景観、地元ならではの特産品やグルメ、温泉、多くの観光スポットを楽しむことができ、サイクリストの聖地としての十分なポテンシャルを有している。 兵庫県および淡路島内3市では、こうした淡路島のサイクリングエリアとしての高いポテンシャルを活かし、サイクリングによる観光振興を促進するため、関係機関や地域の各種団体と連携し、自転車の走行環境、サイクリスト受入れ環境の改善・充実、イベントの実施や情報発信等の取り組みを展開している。 今回の発表では、その取り組み内容について紹介する。
7	株式会社ドーコン・株式会社土谷製作所・北海道バス株式会社	大型バストラックルームへの自転車積載装置の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常、大型バスに自転車を積載する場合には、専用の輪行袋に収納した上でトランクルームに積載する必要があるが、輪行袋を利用者が持ち歩かなくてはならないことや、自転車を解体し輪行袋に収納するまでの時間が掛かることなどにより、非常に煩雑な作業となっている。</li> <li>・そこで、バスのトランクルームに自転車を積載することができれば、利用者の輪行作業は不要となり、サイクリングを目的としたバスツアーや、拠点間移動に活用することができる。</li> <li>・既に、大型バスのトランクルームに自転車を積載する既存事例は存在しているが、より汎用性が高く、様々なバス事業者で導入可能な方策として、自転車の固定やトランクルームへの積載に特段の技術を必要とせず、簡単に可能な積載方法について、現在、3社での共同研究を行っている。</li> <li>・本発表では、その研究の一環として開発した、大型バストラックルームへの自転車積載装置(※)について紹介する。</li> </ul> ※特許出願中
8	たかつき交通まちづくり研究会	クルマにできるだけ依存しないまちを目指して	たかつき交通まちづくり研究会(愛称:たかつきこまち)は、高槻市等を活動の場として、特に中心部(大まかにJR高槻駅と阪急高槻市駅間)において、「出来るだけ車(自家用車)に依存しないまちづくり」を目指して、先進事例や専門書、講習会などから「学び」、市内の歩行者や車の交通量など「現状を把握」、理想とするまちの「イメージを共有」し、より多くの人に関心を持って貰うための「情報を発信」、さらに行政などに対して「提案・提言」することを活動の主目的としています。 平成20年4月に発足した「たかつき交通まちづくり研究会」は、任意団体ですがメンバーには市職員や市議等の高槻市民を含め、市外メンバーも半数を占め、それぞれが建設コンサルタントや公園施設メーカー、出版社、NPO団体、交通評論家、交通事業者等、多種多様の方が参加し、毎月の定例会、年1回のシンポジウム、気軽に交通問題を語る「こまちカフェ」等を実施し、道路空間再配分による自転車走行空間確保等を提案しています。

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
9	萩田賢司、横関俊也	自転車の通行方向別の交通事故発生状況調査	<p>警察庁は平成29年に全国共通の交通事故統計原票の改正を行い、交通事故の発生日点として、自転車専用通行帯、自転車道、横断歩道、自転車横断帯等が追加されて記録されるようになった。</p> <p>これらの自転車走行空間、歩道、路側帯で発生した自転車事故の自転車の通行方向別に発生割合を比較した。交差点では右側通行と左側通行の自転車事故件数に大きな差は見られなかったが、歩道では、右側通行自転車の事故の割合が高くなっていることが示された。また、自転車の右側通行が違反となる自転車専用通行帯や路側帯においても、約40%が右側通行自転車が関与した交通事故であることが示された。ただし、自転車の双方向通行が認められている自転車道においては、自転車事故の約40%しか右側通行自転車が関与しておらず、左側通行の自転車事故が多く発生していた。</p> <p>このように、各種の自転車走行空間における通行方向別自転車事故発生割合を明らかにした。</p>
10	南さつま市(鹿児島県)	南さつま市サイクルツーリズムの取り組みについて	<p>本市は、自転車による町おこしを全国でもいち早く取り入れ、平成7年に「サイクルシティかせだ」を誓言しました。</p> <p>それ以降、自転車による新しいまちづくりを実現するため、自転車道やサイクルステーションなどハード面の整備をはじめ、イベントの開催、産業・文化の振興などソフト面の充実も図ってきました。</p> <p>本市では、サイクルシティ構想の一環として、自転車を活用した観光への取組「サイクルツーリズム」に焦点を当て、地域内外へ広く周知し波及させる活動に取り組んでいます。そして、サイクリングを通じた新たな広域的周遊観光、滞在型観光の拡大を目指し、来訪者の増加による地域活性化を実現するため、「サイクルツーリズムビジョン」を策定し取り組みを推進しています。</p> <p>また今年9月からは、鹿児島県内初となるサイクリングガイドツアー「SATSUMA RIDEサイクリングツアー」も開始し、国内外へ向けPRもしております。</p>
11	ライン導水ブロック工業会	街渠の置換えによる自転車通行空間整備事例	<p>自転車通行空間を整備する際、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」(国土交通省・警察庁)では、「自転車道や車道端部の路面は、自転車の安全性を向上させるため、平坦性の確保、通行の妨げとなる段差や溝の解消に努め、滑りにくい構造とするものとする。」と規定されています。</p> <p>ライン導水ブロックは、L型街渠の代替構造物として歩車道境界ブロックと基礎コンクリートを一体化し、水路と集水スリットを設けた構造とすることでエプロンをなくすことができ、その結果、平坦な路面が拡大し路肩走行の安全性が向上するとともに、路肩の水溜り解消、水ハネ抑制が実現できる歩車道境界ブロックです。</p>
12	徳島大学都市デザイン研究室	自転車利用環境の未来へ～自転車の左側通行は浸透するか～	<p>我が国における自転車“双方向”通行の慣習化は、自転車の安全で快適な通行システムを構成するうえで困難を生み出している。本研究では、双方向通行の課題、通行システム整序化の必要性に関する科学的エビデンスを集約・整理を行っているが、今回はその中から徳島大学都市デザイン研究室で行った研究の一成果を発表する。具体的には、ドライビングシミュレータを用いた仮想空間上での自転車自動車錯綜実験、金沢市における自転車通行指導帯整備効果の分析である。</p> <p>また、上記のような科学的エビデンスを基礎とした、自転車の通行システムの整序化に対する社会的なコンセンサス形成に向けて、オランダを中心に取り組まれている複雑な社会的合意における構造的転換を図る手法であるトランジション・マネジメントについての研究も行っており、国内の自転車フロントランナーを集めてのワークショップを数回開催したところである。</p>

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
13	滋賀プラス・サイクル推進協議会	ピワイチ観光と日常利用を両輪とした自転車利用環境の向上へ	滋賀プラス・サイクル推進協議会では、官民が一体となって「ピワイチ」を中心とした自転車の観光利用と、通勤・通学などの日常利用を両輪として、生活のあらゆる場面で自転車が選択肢の一つとなるよう、安全・安心や快適性といった自転車の利用環境の向上に向けて取り組んでいます。最新の走行環境の整備状況や、経路検索アプリ、サポートステーションの整備等の官民連携での取組のほか、「滋賀県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」に基づく安全な日常利用の促進に向けた取組等をご紹介します。
14	KEEP LEFT PROJECT	「KEEP LEFT」プレートで発信！	KEEP LEFT PROJECTは、「KEEP LEFT」というフレーズに「自転車は車道の左側を通行」という交通ルールの意味を込め、自転車に付ける「KEEP LEFTプレート」で発信しています。 <b>■KEEP LEFTプレートを作るワークショップ</b> デザインされたKEEP LEFT台紙に、絵を描いたりぬりえをしてラミネート加工し、自転車のカゴに付けられるようにします。 <b>■KEEP LEFTオリジナルプレートの制作販売</b> KEEP LEFTプレートは、みんなが自転車に付けたいと思うような、おしゃれでかっこいいプレートをデザインして販売。 KEEP LEFTプレートをつけることで、自分自身との約束として表現することにもなり、見た人への啓蒙にもつながります。 自転車の左側通行が守られれば事故は減ります！
15	国土交通省北海道開発局・北海道	北海道のサイクルツーリズム推進に向けた取り組み	我が国では自転車活用推進法の施行(平成29年5月)により、自転車を取り巻く機運が高まっている。また平成28年3月に閣議決定された「北海道総合開発計画」では、北海道において、アジアの中でも特徴的で魅力的な観光資源を活かしながら「世界水準の観光地」を目指すこととしている。北海道開発局および北海道では、このような情勢を鑑み、広域的な観光周遊ルート形成の促進が期待されるサイクルツーリズムを推進するため、平成29年2月に「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会」を設立し、先進地域の取組等も踏まえつつ、自転車の走行環境、受け入れ環境の改善・充実を図るための方策や、サイクリストも参画した効果的な情報発信の方策について、専門的見地から審議を行い、平成29年度の試行を踏まえた中間取りまとめを行った。本パネルは、中間取りまとめを踏まえ実施している平成30年度の試行の取組内容を紹介するものである。
16	大和産業	自転車を楽しみながら、安心・安全利用で自転車活用促進！	目標:より住みよい街づくりに向かって、自転車に乗ること自体を、快適な暮らしの楽しみとして位置づけ、環境に優しく、安全で健康なサイクルスタイルが期待されています。 課題:現在の大きな課題として、自転車事故問題がクローズアップされています。(利用者が加害者となるケースも急増中。) 対応策としてはヘルメットの着用義務、ながらスマホ・ながらイヤホンの禁止などがあげられますが、多くの人の受け止め方はネガティブなイメージになっています。 方策:ヘルメットを着用した際だけに享受できる楽しみとして、耳をふさがず周囲の状況を把握しながら、音声道案内、観光ガイド、音楽再生、英語聞き流し学習を行える、ヘルメット装着型ICT音声情報端末の活用。 走行中の景色を高精細映像で記録できる、ハンドル取付型ポータブルLEDライト、万が一の事故が発生した場合のドライブレコーダとして、危険な夜間でも鮮明な広角録画として活用。

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
17	茨城県地域振興課	つくば霞ヶ浦りんりんロードの紹介	<p>「つくば霞ヶ浦りんりんロード」は、旧筑波鉄道の廃線敷を利用した自転車道と、霞ヶ浦を周回する湖岸道路を合わせた全長約180kmのサイクリングコースです。また、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」は、①東京圏から近く、②霞ヶ浦や筑波山などの豊かな自然や風景、鹿島神宮に代表される歴史的・文化的資産など多様な地域資源を有することに加え、③平坦で走りやすいといった3つの特徴があり、初心者や家族連れから上級者まで楽しめるサイクリングコースです！</p> <p>茨城県と沿線市町村では、様々な地域資源を結びつけ、誰もが多様にサイクリングを楽しむことができる、日本一のサイクリングエリアの形成を目指しています。</p>
18	真庭市(岡山県)	真庭市自転車を活用した健康づくり推進事業	<p>岡山県真庭市は、散走サイクリングやサイクリングロード整備事業、自転車を活用した健康づくり推進事業など自転車のまちづくりを展開している。自転車を活用し、自転車を通じて若い世代から(25歳以上)健康レベルおよび健康リテラシーを向上させ、地域を支えるための基盤となる健康づくり実践者の増加につなげ、長期的に市民一人ひとりの健康寿命の延伸を目指すよう、株式会社シマノ及び川崎医療福祉大学、サイクルショップ、サイクリング部と協働し、市民や地域の健康レベル・健康リテラシー向上に向け、健康教室、ワークショップ、サイクリングを健康プログラムとして実施している。若い世代から多くの市民が参加し、心身面の影響がみられているだけでなく、参加者の中から事業のサポートや自主グループの立ち上げなどが見られている。</p>
19	静岡市都市局都市計画部交通政策課	世界水準の自転車都市“しずおか”の実現を目指して	<p>平成26年度に策定した「静岡市自転車利用計画」では、「世界水準の自転車都市“しずおか”」の実現のため、6つの基本目標とそれに対応する「ハード」「ソフト」「マインド」の3つの施策の柱を定めている。この計画に基づき、本市がこれまでに進めてきた事業と、民間の企業及び団体との連携によって始まった今年度の新たな取組「静岡市自転車サポーター制度」について紹介する。</p> <p>①静岡市自転車利用計画                  ②「ハード的対応」                  静岡市自転車走行空間ネットワーク整備計画                  ③「ソフト的対応」                  商店街及び学生と連携した安全啓発・自転車安全教育                  ④「マインド的対応」                  自転車利用促進イベントの開催・自転車文化史                  タンデム自転車の導入について                  ⑤静岡市自転車サポーター制度 ……など</p>
20	TABIRIN(パシフィックコンサルタンツ株式会社)	サイクリングを楽しむ人々と地域をつなぐポータルサイト「TABIRIN(たびりん)」	<p>TABIRIN(たびりん)は、ビギナーから上級者まで「自転車」で「旅」を楽しむ人のための、便利で楽しい情報を提供する総合情報サイトです。全国の自治体が作成したサイクリングマップ・コースの検索機能をはじめ、サイクリングの魅力や伝える記事や自転車×旅情報など、旅の計画から現地での必要になる情報を総合的に提供しています。</p> <p>TABIRINに登録されたコース数は、321コース、累計11,906km(2018年9月20日現在)。</p> <p>自転車×旅情報では、シェアサイクル、サイクルトレイン、レンタサイクルがある道の駅、サイクルステーションがある空港、自転車でも乗れるフェリーなど、豊富な情報を掲載しています。</p> <p>サイクリングマップや各種自転車に関する情報について、随時掲載申込を受け付けています。</p> <p><a href="https://tabi-rin.com/">https://tabi-rin.com/</a></p>

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
21	水戸市(茨城県)	自転車通行空間「車道混在」の整備事例～幹線市道39号線～	<p>今回ご紹介させていただく幹線市道39号線は、水戸駅南方面の玄関口として位置付けられている都市計画道路です。 法定外路面表示による「車道混在」の整備ながら、以下のような方策により快適な自転車通行空間整備を実現しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■片側3車線の道路を2車線化！ 2車線分をまるまる自転車通行空間に転用しました</li> <li>■車道幅員を1車線あたり25cm削減！ 幅員1mの自転車通行空間を生み出すことに成功しました</li> <li>■全線にわたり「駐停車禁止(降車を除く)」！ 自転車通行空間の確保が交通規制上も担保されています</li> </ul> <p>ぜひお立ち寄りのうえ、ポスターをご覧ください。</p>
22	輪の国びわ湖推進協議会	輪の国びわ湖推進協議会の活動紹介	<p>輪の国びわ湖推進協議会は、びわ湖一周サイクリングをきっかけに、自転車利用者を増やし、車から自転車・公共交通への転換を目指すための活動を行っています。 今年5月には、国土交通省より自転車利用推進功績者表彰を受賞しました。</p> <p>活動内容としては、びわ湖一周サイクリング認定証の発行、ガイドブックの制作、自転車とまちづくりに関するセミナー・シンポジウムの開催、自転車ルール・マナー啓発等を行っています。 近年は、滋賀県がびわ湖一周サイクリングを通じた地域振興に力を入れるようになり、県との共同事業も増え、官民協同でのサイクルツーリズム推進の先駆けとなっています。</p>
23	一般社団法人伊豆観光圏活性化協会	静岡県東部における思いやり1.5m運動～活動報告とこれからの自転車活用推進計画への提案～	<p>2017年に伊豆半島から始まった思いやり1.5m運動は、地域のサイクリストとキャラバン隊を結成した啓蒙運動から始まった。その後、静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会の後援を受け、加盟21市町の参加により思いやり1.5m運動を展開している。今回のパネルでは、昨年の報告以降の静岡県東部における思いやり1.5m運動の展開状況の報告とともに、静岡県及び6市町の連携協力による自転車ロードレースの開催等サイクルツーリズムの動向を紹介する。</p> <p>思いやり1.5m運動は、サイクルツーリズムが進展する一方で地形上道路拡幅が難しい地域におけるシェア・ザ・ロードの実践の一つである。ネクストステップとして、自転車活用推進計画において実施すべきと位置づけられた施策に対し、市街地における自転車通学事故対策を例に、自転車走行環境整備、交通安全運動や取締の実施などと合わせた取組パッケージと、その一環としての思いやり1.5m運動の展開アイデアを提案する。</p>
24	沖縄輪業株式会社、(一社)沖縄県サイクルスポーツ振興協会、株式会社JTB沖縄、(NPO法人)ツール・ド・おきなわ協会、琉球国際航業株式会社 共同(50音順)	「美ら(Chura)島サイクリング」の取組	<p>沖縄県は自転車分担率3.4%(全国:16.0%、平成22年度国勢調査)と自転車後進県である。しかしながら近年、自転車の利用が急激に増加している。一方、県内観光ではさんご礁からなるビーチや琉球の歴史散策などにより各国からの観光客が集まり、県入域観光客数は米国ハワイ州を抜いて1,000(万人/年)に達しそうな勢いで、それに合わせて自転車ツーリズムも活発となっている。</p> <p>このような中、沖縄県内に拠点を置く様々な業態の組織では、観光や通勤・通学、移動、生活をサポートし、県内での自転車を利した経済(Bikenomics)の活性化を進めている。今回これら各組織の個別活動や、各組織同士の連携のあり方について報告する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① イベント開催、レース開催</li> <li>② レンタサイクル</li> <li>③ ガイド育成及びガイドツアー(地域ガイドとの連携)</li> <li>④ 自転車輸送支援、ツーリズム</li> <li>⑤ サイクリングマップ作成</li> <li>⑥ 拠点整備及び自転車ラック設置</li> <li>⑦ 自転車通行空間調査及びインフラ整備 等々</li> </ol>

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
25	琉球国際航業株式会社	Velo-city参加報告【沖縄による取組発表編】	<p>国際航業・琉球国際航業(株)では、自転車国際会議(Velo-City)に過去8回参加・発表を行った。その中でもOKINAWAを題材とした発表は5回(2015年以降4年連続)である。</p> <p>これまでに、私たちがOKINAWAを題材に発表した概要を報告する。</p> <p>2009/ブリュッセル【ベルギー】沖縄北部自転車走りやすさマップ                  2013/ウィーン【オーストリア】南城市でのPedelecによるシェアリング                  2015/ナント【フランス】自転車走行による路面調査手法                  2016/台北【台湾】沖縄における私たちの取組                  2017/アーネム・ナイメーヘン【オランダ】サイクルアイランド・OKINAWA                  2018/リオデジャネイロ【ブラジル】サイクルツーリズムによる沖縄の経済効果</p> <p>Velo-Cityとは、1980年にブレーメン(ドイツ)で第1回会議が行われ、本年リオデジャネイロ(ブラジル)で26回目となった自転車国際会議である。題材は、まちづくり・インフラ、ツーリズム、教育、テクノロジー、産業、経済等多様であり、60か国以上の参加者で議論される。</p>
26	国際航業株式会社	Velo-City(世界自転車会議)の紹介	<p>世界最大の自転車会議であるVelo-Cityの紹介を行う。</p> <p>1. Velo-Cityとは                  Velo-Cityは、欧州自転車連名(ECF)が主催する自転車環境や政策などについて討論する世界最大の自転車まちづくり会議である。これまで14カ国で26回開催されており、2010年からは奇数年はEUで、偶数年はEU域外の都市でVelo-city Globalとして開催されている。</p> <p>2. Velo-Cityにおける実施内容                  Velo-Cityでは主に以下の内容を実施している。</p> <p>①オープニング・クロージング                  ②会議・論文発表等                  ③バイクパレード                  ④展示ブース</p> <p>3. 当社の発表内容                  当社グループがVelo-Cityで発表した内容を紹介する。</p>
27	株式会社Seabird	産学官連携での自転車による地域振興「CYCLOG in 神戸」	<p>2019年のラグビーW杯、2020年の東京五輪、そして2021年にはワールド・マスターズゲームの関西開催などビッグスポーツイベントが目白押しとなるこの期間こそが地域振興の絶好のタイミング。</p> <p>というわけで神戸山手大学観光学部の学生さんたちが、神戸観光局、株式会社Seabirdとタッグを組んで「私達が見てほしい神戸」をテーマに自転車イベントを11月11日に開催します。</p> <p>ワールド・マスターズゲームにちなんだ多くのスポーツの発祥の地などを含むおすすめスポットを約100か所選定。6時間の間に自転車でどれだけ回るかを競います。単に回るだけではなく、地域で使った昼食代などもポイント化することで経済効果も狙っているのがミソ！</p>
28	横浜市道路局	思いやりSHARE THE ROAD運動	<p>横浜市道路局では、より安全・快適な通行環境の実現を目的に、車道を通行する仲間である自転車とクルマが互いに思いやりをもって車道を共有する意識(SHARE THE ROAD)を広める運動を進めています。</p> <p>自転車利用者のルール遵守意識の向上及び自転車が車道の左側を通行しやすい環境の創出を目指すとともに、自転車ルールブック「みんなのサイクルルールブックよこはま」を活用して、自転車の安全利用についての啓発活動も積極的に進めています。</p>



## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
29	藤本英子	景観からみた自転車走行環境整備における路面表示の色彩	<p>2016年12月、国の「自転車活用推進法」成立を受けて自転車走行環境整備が全国的に急速に進みつつある。これまでも2007年に警視庁と国土交通省により『自転車利用環境整備ガイドブック』作成され、全国7都市でケーススタディが行われ、2008年には全国98地区で自転車利用環境の整備が進むまでに至った。しかし、全国で自転車走行環境整備が進むにつれて、景観の分野ではその路面表示などのデザインに、課題があることが明らかになってきた。国の自転車走行路面色の推薦色が「青色」であったため多くの自治体で彩度の高い青色の自転車路面色が広がった。全国の景観色彩を専門とするメンバーによる「公共の色彩を考える会」でも、以前からこの課題を取り上げていたが、今後全国的に自転車利用環境の整備が進む中、地域の景観を壊すことなく整備を進めるには、周辺の景観を把握した上での整備が求められる。この提案では「ガイド冊子」と共に、そのあり方と手法を伝える。</p>
30	株式会社技研製作所	機械式駐輪場エコサイクル	<p>エコサイクルは【利用のしやすさ】【高速・安全な出入庫】【自転車収容効率の高さ】が特徴の機械式駐輪場です。直径約8mの空間に自転車を200台以上収容するエコサイクルは、駐輪場不足や迷惑駐輪の解消に貢献するだけでなく、自転車利用を促進させ、駐輪場環境を美しく・文化的に高めていくことのできる製品です。エコサイクルは駐輪場の用地確保が困難な都市部の駅周辺を中心に、官公庁施設敷地内や民間ビル、商店街の中など、全国20箇所、52基の納入実績があります。</p>
31	大阪府岬町	サイクルシップ 広域型サイクルツーリズム事業	<p>大阪府岬町は、兵庫県洲本市と共同で自転車を積載できるサイクルシップ（旅客船）を用いて、大阪湾を海路でつなぐサイクルツーリズム事業を以下のとおり実施している。</p> <p>名称：広域型サイクルツーリズム事業  航路：大阪深日港～淡路島洲本港  船舶：インフィニティ号（旅客船 49トン）  期間：2018年7月1日から2019年2月末日  事業費：1億円（地方創生推進補助、乗船料、自治体負担）</p> <p>淡路島一周や大阪・和歌山側の広域サイクルマップによるサイクルルートをサイクルシップでつなぎ、さらに広域に往来できる交通環境の下でサイクリストの利便性を向上させ、航路の民営定期化と地域の観光振興を目指している。サイクリストの利便性向上は、既存の陸路より移動時間の短縮や自転車の積載を工夫している。前者は深日港から淡路島まで片道55分と半減、後者は前輪フォークを固定するフックを2階デッキ等に設置し、前輪を外すがチェーンや後輪を外すことなく約30台が積載できる。ラック（片道300円）の利用者数は輪行袋よりも多い状況で利用調査により今後のサイクルシップのビジネスモデルを形成しようとしている。</p>
32	京都市	京都市の自転車安全利用に係る取組	<p>京都市では、「京都市自転車安心安全条例」（平成22年12月施行）及び「京都・新自転車計画」（平成27年3月策定）に基づき、自転車の安全利用に対する市民等の意識向上を図るため、ライフステージに合わせた、京都ならではの体系だった自転車安全教室の充実に取り組んでいる。とりわけ、自転車事故に占める割合が高い中学生及び高校生を対象とした、開催校の周辺地域の交通事情など、より身近な環境を題材にした座学形式の教室の充実と、今後自転車デビューを迎える幼児を対象とした、キックバイクを用いた教室の充実に注力しているところである。また、昨今の自転車事故における高額賠償事例の発生等を踏まえ、この度、条例を改正のうえ、自転車保険への加入を義務化（事業者・レンタサイクル事業者は平成29年10月から、一般の自転車利用者は平成30年4月から）し、万一の事故発生に備えた保険の加入促進に努めているところである。</p>

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
33	Cyclists & Cycling around the World 翻訳・勉強会	僕らの知らない自転車利用の世界 Cyclists & Cycling Around the World	「Cyclists & Cycling around the World」は、Juan Carlos Dextre、Mike Hughesと、Lotte Bechによって編集され、2013年に出版された、まさに世界中の自転車利用環境に関するレポートを取り纏めた書籍。 2017年から三国千秋をはじめとする有志により、翻訳の勉強会が立ち上がり、その背景や特徴についての読み込み、そして我々日本の自転車施策が学べる事について議論しています。 本書からは、欧州や北米だけでなく、南米やアフリカ、アジアなど、これまで我々が自転車施策を語る時に多くは目にしなかった国々からの事例があり、それぞれの取組の工夫、着想、そしてなにより将来を広く見据えた前向きで着実な取り組みに感銘と感化をうけています。単に直接的な自転車利用環境ではなく、経済的な自立、社会参画、教育、文化、女性の地位向上など、改めて我々も考えるテーマが多くあります。 ポスターセッションでは、本書より、これから我々の施策を行う上でのヒントとなるキーワードをご紹介します。
34	公益社団法人日本交通計画協会	東京都心部シェアサイクルの事業規模と利用実態の変化	公益社団法人日本交通計画協会では今後の都市交通としての地域モビリティのあり方を考える「次世代地域交通研究」を実施しています。その中の重要なモードとして、シェアサイクル(コミュニティサイクル)に着目しています。 本研究では、東京都心部にて、複数区の事業での相互利用可能な「自転車シェアリング広域実験」の実態データを分析する事で、これまで概念として捉えられてきた、規模の拡大による利用拡大効果や、時間帯によるエリアごとの利用特性の違い、土地利用現況など地理的条件との関連性などを分析しています。 今回は、4区相互利用の開始前(各区独立での運用)、4区相互利用の開始後(お互いの区域をこえての貸出返却が可能)、6区での相互利用に拡大した後という3段階の違いについて、可視化した事例をお示しします。これにより、都市交通としてのシェアサイクルとして事業の規模、ポート分布密度の重要性が確認いただけます。
35	(株)仲明、(株)藤田住環境計画、NPO法人 自転車政策計画推進機構	駐輪場のIoT化(ICタグの活用と可能性)	自転車活用推進計画の講ずべき措置「5.自転車のIoT化の促進」の中にも記載されているICタグ等を活用した放置自転車対策について、実際にICタグを活用した滋賀県草津市南草津駅自転車駐車場の事例をもとに、今後の自転車活用と駐輪場の効率的な管理運営に関する可能性についてご紹介いたします。 ・同一システムによる複数の駐輪場の相互利用 ・駐輪場及びゾーン別の柔軟な料金設定と料金収受の簡素化 ・システム化による人件費の削減と管理人の人材不足解消 ・放置禁止区域内の注意喚起(音声・携帯メール等) ・保管所への移送通知の円滑化、自動化 ・盗難自転車の確認作業の簡素化(防犯登録機能の付加) ・ビックデータの活用による情報提供(満空表示等)、駐輪場利用率の効率化(収益改善)、自転車関連計画への反映等
36	株式会社ナビタイムジャパン	自転車NAVITIMEアプリを用いた情報提供と利用状況の分析	ナビタイムジャパンは、独自のアルゴリズムを用いた技術「トータルナビゲーション」をもとに、「NAVITIME」「乗換NAVITIME」「NAVITIMEドライブサポーター」をはじめとした、各種ナビゲーションサービスを提供しています。 本発表では、自転車専用ナビゲーションアプリ「自転車NAVITIME」の取り組み事例を紹介するとともに、そのアプリから取得できるGPSプローブデータと経路検索する際の発着地等を記録した経路検索条件データを用いた分析事例を紹介いたします。自転車専用ナビゲーションアプリから取得できるデータを用いることで、自転車利用者の走行ルート、移動目的地などが把握でき、自転車利用環境整備計画などの基礎資料として用いることが可能です。

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
37	小西琢也、吉田長裕	利用者評価に基づいた外出困難者を対象とした2人乗り可能な自転車の潜在的利用機会と課題	自転車活用推進法の施行を背景に外出困難者のパーソナルモビリティ (PM) の新たなニーズが広まっている。PMに関する研究はいくつかあるが、2人乗り可能な自転車による同伴外出に着目した研究は少ない。本研究では、どのような外出困難な状況に対して、2人乗りの可能な自転車の潜在的な利用機会と課題があるのかを把握することを目的とし、外出困難者、その保護者、サービス提供機会がある事業従事者を対象に2人乗り可能な自転車の利用者評価を行い、質問紙調査によって集計した。2人乗り可能な自転車は外出困難者に対して、娯楽的な利用が見込まれるだけでなく、日常利用の可能性も示された。しかし、日常利用に至るまでには、制度、金銭、通行環境などの課題があると示された。
38	藤江徹、柳原崇男、小西琢也、吉田長裕	イギリス・ロンドンにおけるInclusive Cyclingと自転車トレーニング	障がいの有無などに関わらず自転車を楽しむことあるいは、そのための自転車のことを「Inclusive Cycling」と呼ぶ。2018年9月IATSS(国際交通安全学会)のプロジェクトとして、イギリス・ロンドンにおいてInclusive Cyclingの体験機会を提供している団体を視察し、国際ワークショップを開催した。本発表では視察した団体とイギリスの一般的な自転車教育を紹介する。イギリスのトレーニングは障がい者向けではないが、トレーナーの経験により個別に対応している。ロンドンにおいては、ロンドン五輪のレガシーとしてInclusive Cyclingの体験機会が提供され、多くの障がい者が自転車に触れている。一方で、日本と同様に体系的なトレーニング手法が確立されていないのが現状である。
39	バスと自転車の共存プロジェクト	バスと自転車とクルマの共存プロジェクト	自転車の車道走行増加に伴い、ルール無視の自転車や自転車を邪魔者扱いする自動車などによるトラブルや事故が問題となっています。また自転車と走行エリアや平均速度が似た路線バスも自転車に神経を尖らせています。これらの改善には自転車ルールの周知徹底はもちろんですが、乗り物を運転する人各自が「道路は多様な交通が共存するところである」という意識を持つことが不可欠です。「バスの死角体験プログラム」では、実物の路線バス運転席で運転士の視点や立場を体感しバスと錯綜する自転車の立場へ立ち返るプロセスや、バスの事故回避の運転技術に触れることを通じて、自らの運転を振り返り共存型の安全走行について考えて頂きます。楽しく安全運転を学べる体験型コンテンツとして、主に自治体・交通事業者・自転車関連団体主催のイベントにて、主旨や来場者に合わせて自転車ルール・マナーの啓発やバス乗り方教室などの公共交通PRと併せて実施しています。
40	一般社団法人日本自転車販売士協会	自転車点検義務化に向けての取り組み	国内保有台数約7000万台、全ての自転車が毎日安全に移動できる乗り物であり続けるためには定期的な点検および整備が不可欠です。日本自転車販売士協会では定期点検を始めとした整備に必要な技術、知識を備えた「自転車販売士」を養成および認定をして参ります。走行中に起こりうるトラブルの多くは定期点検や確かな整備で撲滅できます。当協会は自転車の安全を守り続ける仕事に責任とプライドをもって取り組むことで信頼される安心を社会に提供します。
41	尼崎市生活安全課	自転車総合ポータルサイト「尼っ子リンリン」	本市では、自転車利用に適した都市としての特性を、まちの強みと位置づけ、環境や健康面等における自転車の持つメリットを最大限に活用したまちづくりを推進し、自転車の位置づけを都市課題から都市魅力へ転換することで、市民一人ひとりが自転車に愛着を持ちシビックプライドを持つまちとするため、自転車政策について、総合的な取組を進め、市民が、生活の中で安全に、安心して、快適に自転車を利用できる魅力あるまちを目指しています。その取組の1つとして、自転車を活用した観光やイベントなどの魅力に関する情報や交通事故防止、放置自転車対策などの課題解決に向けた取組の情報を市民等がワンストップで取得できる自転車総合ポータルサイトを開設しました。コンテンツの中には、自転車のルールやマナーについて学ぶことができる「自転車ルールチャレンジテスト」があります。また、同サイトの開設に合わせて、「尼っ子リンリンTwitter」もはじめ、こちらでも自転車関連情報を発信しています。

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
42	尼崎市生活安全課	全国初！盗難対策「アラミー」社会実験を実施しました	<p>近年、本市は兵庫県下で神戸市に次いでワースト2位の自転車盗難認知件数(平成26年:2,757件、平成27年:2,471件、平成28年:2,256件)を記録しており、市内街頭犯罪認知件数の約半数を占めているような状況でした。自転車盗難認知件数自体は、例年ゆるやかな減少傾向にあったものの、平成29年は春先以降、増加傾向に転じてしまったことから、市として早急な対策が必要となりました。</p> <p>通常のポスターやチラシによらない画期的な啓発方法を模索していく中で、防犯アラーム付きのダミー自転車を市が用意し、駐輪場等に配置すれば面白いのでは、という意見が出され、それを実行に移したものが「アラミー」社会実験です。</p> <p>盗難多発エリアを中心に、市内3か所にダミー自転車を設置・広報した結果、平成29年の盗難件数は2,193件と、増加傾向から一転、社会実験開始後の3か月間(9月～12月)で対前年比で累計153件もの盗難を減らすことに成功しました。</p> <p>平成30年に入ってもその効果は持続していると見られ、8月末までで12か月連続で対前年同月比マイナスを記録中です。</p>
43	株式会社東急レクリエーション	渋谷ストリーム発自転車文化振興のHUBを目指すサイクルカフェ「TORQUE」	<p>2018年9月に開業しました渋谷ストリームは『クリエイティブワーカーの聖地』をコンセプトとしており、多様なワークスタイルを支援する施設づくりを目指し、東京急行電鉄株式会社を中心に事業推進する大規模複合施設です。その施設で、映画興行をはじめ様々なエンターテインメントを提供する当社は、「自転車」と「飲食」、「多目的広場」を組み合わせる事で新たなサービスを提供していきます。</p> <p>サイクルカフェ「TORQUE」は『サイクリストフレンドリー』をコンセプトに、ヘルシーなワークスタイルを提案するカフェとして、様々な自転車ユーザーの感度をくすぐる自転車情報の提供に加え、自転車通勤をするワーカーをサポートし、趣味や興味を通じて交流する「場」の提供を行っていきます。</p> <p>東急グループの中の一社である当社は、「TORQUE」の出店を契機に東急グループ全体で打ち出している「エンタテインメントシティSHIBUYA」の賑わいの創出の一翼を担ってまいります。</p>
44	金沢自転車ネットワーク協議会(国土交通省金沢河川国道事務所、石川県、金沢市、石川県警察本部他)	連携と協働で歩んだ10年の軌跡～金沢の自転車施策～	<p>金沢市内では、平成19年度における全国初のバスレーンを利用した「自転車走行指導帯」(車道混在型の自転車通行空間)の整備を皮切りに、この10年間、自転車通行空間整備を継続的に推進してきた。</p> <p>平成22年度には「金沢自転車ネットワーク協議会」が設立され、国土交通省金沢河川国道事務所、石川県、金沢市、警察、学識者の連携・協働のもと、「金沢自転車通行空間整備ガイドライン」の策定や「自転車ネットワーク路線」の選定など、様々な自転車施策を展開している。</p> <p>金沢における10年間の自転車施策の経緯をはじめ、これまでの積み重ねで得られた効果的な自転車施策推進の6つのポイント、取り組みの効果、今後の展望などを「10年のあゆみ」としてとりまとめ、広く発信することで、金沢市内・石川県内そして全国におけるこれからの自転車活用推進の一助とする。</p>
45	一般社団法人北海道サイクルツーリズム推進協会(HCTA)	40人のツアーでサポートガイドを育成	<p>一般社団法人北海道サイクルツーリズム推進協会(HCTA)は北海道内のサイクルガイド事業者とサイクリングクラブが中心となって結成されました。</p> <p>北海道で国内、海外からのサイクリングツアーの受け入れを行ってきた知見を観光事業者、地方行政、観光協会、愛好家団体と共有し、不足するサイクリングガイドの育成やサイクルツーリズムに関わる事業の課題解決と必要な事業の明確化を行い、自然と共生する事業を実施することを理念としています。</p> <p>※イベントよりも40名までのツアーを複数回運営し、地方のサポートガイド育成講習会からまちづくり人材育成を推奨。</p> <p>●事業内容は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリングツアーガイドとイベントのサポートガイド養成</li> <li>・サイクリングイベントの企画、運営に関わる専門家の育成</li> <li>・サイクルツーリズムの国内、海外でのブランド化</li> <li>・自転車を使ったまちづくり事業のアドバイス</li> <li>・サイクルツーリズムに関するフォーラム、勉強会の開催</li> <li>・青少年向けの自転車教育プログラムの開催</li> </ul>

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
46	愛媛県自転車新文化推進課	四国一周サイクリングの推進	<p>1. 「CHALLENGE1,000kmプロジェクト」            ○四国一周サイクリストを公式ジャージにより可視化            ○完走者に完走証を交付            することにより、サイクリストの達成感を高め、四国一周サイクリングの認知度の向上を図っている。  <b>【手順】</b>            ①HPから登録            ②8,000円(税込)を入金(ジャージ等代金)            ③チャレンジキット(ジャージとチャレンジパス)送付            ④四国一周にチャレンジ            ⑤サイクルコンピュータ等のGPSデータを入力            ⑥完走証と完走記念品(メダル兼ベルトのバックル)の授与            ※四国内29の道の駅の協力により、スタンプラリーによる完走証の発行が可能。</p> <p>2. 「若者応援プロジェクト」            若者が四国一周サイクリングに挑戦し、コース及び周辺の食・景観など四国の魅力を若者目線で発信。四国一周サイクリングの認知度を高める取組み。            H30/8/21～9/27に、若者10チーム(33名)がチャレンジし、食、自然、人との出会い等、体感した四国の魅力をSNSで発信した。</p>
	公益財団法人堺都市政策研究所	歴史街道を基軸とした都市魅力の向上と発信(H29年度調査研究報告)	<p>堺市には紀州街道、高野街道、竹内街道など歴史街道が多く通っている。その周辺には、百舌鳥・古市古墳や歴史的に大きな魅力を持つ資源が多く点在する。堺地域には、伝統産業(刃物、線香、和晒・ゆかた、自転車、敷物、昆布)や和菓子、安全安心農産物の「堺のめぐみ」、出島・石津漁港の新鮮な魚など、多くの魅力あるコンテンツが存在する。近隣地域にも「大阪産(もん)」などが多く存在する。</p> <p>そこで、平成29年度は、昨年4月に日本遺産に登録された「竹内街道」を取り上げ、周辺の魅力あるコンテンツを整理するとともに、それらを街道によって融合させることなどの都市魅力の向上策の具体的なプロジェクト例やその発信方策を検討した。</p> <p>このような点在する堺や近隣地域の魅力を結びつけ、都市魅力のさらなる向上を狙う方策として、自転車を活用するプロジェクトを中心に報告する。</p>
	公益財団法人堺都市政策研究所	歴史街道を基軸とした都市魅力の向上と発信(H30年度調査研究中間報告)	<p>平成30年度は、堺市内を通る主な歴史街道に焦点を当て、地域資源の調査・整理を行い、歴史街道を基軸とした都市魅力の向上と発信方策の調査・研究を行っている。堺市域で広域に分布する地域資源を有機的に結び、回遊を促す方策として、シェアサイクルの活用を検討している。</p> <p>例えば、ポートをまちなかに分散配置した「都市型シェアサイクル」、駅にポートを設置して複数の駅間で貸出・返却が可能となる「駅型シェアサイクル」の両立をめざし、相互に貸出・返却可能とする仕組みを提案している。</p> <p>また、自転車を活用した街道活性化策として検討した具体的なプロジェクトの中から、サイクルロゲイニングや堺のご利益めぐり等のソフト面の取組み、サイクルステーションや案内誘導サインの設置などのハード面の取組みを紹介する。</p>
	国土交通省大阪国道事務所	国道26号住吉橋の架替事業	住吉橋は老朽化により損傷が進行し補修を行うことが必要であり、また耐震性を高めるため架替を行うものである。
	大阪府住宅まちづくり部都市空間創造室都市空間創造グループ	大阪都市圏 広域サイクルルート連携事業	<p>「グランドデザイン・大阪都市圏」に基づき、多様な地域資源を活かし、行政区域にとらわれない広域的な視点で都市間連携を強化する取組みとして、関西各地で進められているサイクルルートを連携することで自転車を活かし回遊性の向上によるまちづくりにつなげていく。</p> <p>○ H30年度は、泉州と紀の川自転車道や「アワイチ」との連携をめざす社会実験を実施中</p>

## 第7回自転車利用環境向上会議in堺 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
-	大阪府警察本部交通部交通総務課自転車対策室	左側通行徹底キャンペーン	現在、大阪府警察では、道路交通の大原則である「車両の左側通行」を遵守させることにより、自転車利用者に「自転車も車両であること」を認識させるとともに、車両の運転者として、他の交通ルールの遵守をも促し、良好な自転車交通秩序を実現させることを目的に「左側通行徹底キャンペーン」を展開しています。 当セッションにおいては、同キャンペーンの取組状況を紹介させていただきます。
-	堺自転車まちづくり市民の会	自転車のまち・堺を支える堺自転車のまちづくり市民の会	本市では、「堺 自転車のまちづくり・市民の会」(市民ボランティア団体)と行政が一体となって、「自転車」のまちづくりを進めており、自転車のまちづくりを進める本市にとって、なくてはならない活動団体である。 市民の会の主な活動は以下の通り。 ①「自転車デー」の開催 自転車クイズなどを通じて、市民とのコミュニケーションを図り、自転車のルールの周知、マナーの向上を呼び掛けている。 ②「堺 自転車地図」の作成 市民の会の会員が実際に市内を試走し、推奨コースを紹介。 ③SAKAI散走等のイベントの企画・立案 自転車の利用促進、楽しさを伝えるため、SAKAI散走やサイクリング等のイベントに実施 ④「堺 自転車の楽校(がっこう)」の開講 さらに安全・快適で楽しい自転車利用の推進、また「自転車のまち・堺」から自転車の魅力を発信するため、月1回、「堺 自転車の楽校」を開講
-	堺市建設局大和川線推進室	大和川左岸の自転車通行環境の向上	
-	堺市環境政策課	SDGs未来都市・堺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、2015年9月、ニューヨークで開かれた国連総会で採択されたもので、2016年から2030年までの15年間に、貧困や不平等・格差、気候変動、資源の枯渇、自然破壊などの様々な問題を根本的に解決し、私たちの世界をよりよくすることをめざす、世界共通の17の目標(ゴール)です。</li> <li>・堺市は、平成30年6月に、国から「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの実現に向けた取組を進めています。</li> <li>・自転車利用の推進は、健康(ゴール3)、レジリエントなインフラ(ゴール9)、高齢者に配慮した交通手段、大気汚染防止(ゴール11)、CO2削減(ゴール13)などのマルチベネフィットを生み出すことで、SDGsの達成に大きく貢献するものです。</li> <li>・今後とも、本市は、SDGsの視点を持ちながら、国際社会で合意されたSDGsの達成を目指してまいります。</li> </ul>